

◆特定共同研究(A) (研究期間:平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画等のプロジェクトへの、全国の研究者の参加支援)

No.	課題番号	代表者名	所属機関	担当教員	研究課題	報告書
1	2015-A-02	末次 大輔	海洋研究開発機構・地球深部ダイナミクス研究分野	歌田 久司	地球深部の構造とダイナミクス	報告書
2	2015-A-01 (1203)	松澤 暢	東北大学大学院理学研究科	企画部	地殻応答による断層への応力载荷過程の解明と予測	報告書
3	2015-A-01 (1509)	小原 一成	東京大学地震研究所	企画部	プレート境界すべり現象モニタリングに基づくプレート間カップリングの解明	報告書
4	2015-A-01 (1511)	鶴岡 弘	東京大学地震研究所	企画部	地震活動に基づく地震発生予測検証実験	報告書
5	2015-A-01 (2201)	松本 聡	九州大学大学院理学研究院	企画部	地震・火山相互作用下の内陸地震・火山噴火発生場解明およびモデル化の研究	報告書
6	2015-A-01 (2301)	八木原 寛	鹿児島大学大学院理工学研究科	企画部	海域と島嶼域における地震・地殻変動観測による南西島弧北部プレート境界域テクトニクスの観測研究	報告書
7	2015-A-01 (2501)	長尾 年恭	東海大学海洋研究所	企画部	電磁気的地震先行現象の観測と統計評価による他種の先行現象との比較	報告書

◆特定共同研究(B) (研究期間:平成27年4月1日-平成28年3月31日)

(全国的な規模のグループが実施する、地震予知・噴火予知計画等の事業費に基づかないプロジェクトで将来事業化を目指す計画)

No.	課題番号	新規 継続	代表者名	所属機関	担当教員	研究課題	報告書
1	2013-B-02	最終年度	武尾 実	東京大学地震研究所	市原 美恵	火口近傍における多項目観測による噴火機構の解明	報告書
2	2013-B-04	最終年度	平賀 岳彦	東京大学地震研究所	平賀 岳彦	先端的材料科学技術による鉱物多結晶合成とそれを用いた新たな実験地球物質科学の創生	報告書
3	2013-B-07	最終年度	中野 慎也	統計数理研究所	福田 淳一	固体地球科学におけるデータ同化法の構築	報告書
4	2013-B-08	最終年度	田中 宏幸	東京大学地震研究所	田中 宏幸	ミュオグラフィ開発/利用コンソーシアム(H25年度課題名:共通モジュール開発を通じたミュオグラフィ測定要素技術の体系化)	報告書
5	2013-B-09	最終年度	伊藤 喜宏	京都大学防災研究所	望月 公廣	スロースリップの観測とモデリング:ヒ克蘭ギ沈み込み帯	報告書
6	2013-B-11	最終年度	佐伯 和人	大阪大学大学院理学研究科	市原 美恵	火山観測ロボット群の運用準備確立計画	報告書
7	2014-B-13	継続	佐藤 比呂志	東京大学地震研究所	石山 達也	日本列島のコミュニティ・ブロックモデルの構築	報告書
8	2014-B-15	継続	山本 真行	高知工科大学システム工学群	今西 祐一	地震波・微気圧波計測を融合した地殻・大気中現象の波源・規模推定	報告書
9	2014-B-16	継続	高橋 栄一	東京工業大学大学院理工学研究科	栗田 敬	巨大地震が励起する火山活動の活性化過程の研究	報告書
10	2014-B-17	継続	井上 邦雄	東北大学ニュートリノ科学研究センター	田中 宏幸	指向性を持つ小型反ニュートリノ検出器の開発とその素粒子地球物理創成への展開	報告書
11	2015-B-01	新規	小菅 正裕	弘前大学	前田 拓人 小原 一成	地震波形解剖学の計算科学的新展開	報告書
12	2015-B-02	新規	小澤 拓	防災科学技術研究所観測・予測研究領域	青木 陽介	新世代合成開口レーダーを用いた地表変動研究	報告書
13	2015-B-04	新規	桑谷 立	海洋研究開発機構地球内部物質循環研究分野	長尾 大道	機械学習によるプレート境界岩の高次元地球化学データ解析	報告書

◆**特定共同研究(C)** (研究期間:平成27年4月1日-平成28年3月31日)
 (地震研究所が特別に認めた、共同利用経費以外の資金によって運営される共同研究プロジェクト)

No.	課題番号	代表者名	所属機関	担当教員	研究課題	報告書
1	2013-C-01	地震火山噴火予知 研究推進センター長	東京大学・ 地震研究所	地震火山噴火 予知研究推進 センター長	防災研究フォーラムによる 地震火山研究の推進	報告書
2	2013-C-02	木村 尚紀	防災科学 技術研究所	平田 直	首都直下地震の地震ハザード・ リスク予測のための調査・研究	報告書

◆一般共同研究（研究期間：平成27年4月1日-平成28年3月31日）
 （所内外の研究者からなる少人数のグループで協力して進める共同研究）

No.	No.	代表者名	所属機関	担当教員	研究課題	報告書
1	2015-G-01	小野 重明	海洋研究開発機構海洋掘削化学研究開発センター	三部 賢治	沈み込むスラブ中の出現する炭酸塩鉱物の電気伝導度の測定	報告書
2	2015-G-02	石橋 秀巳	静岡大学大学院理学研究科	安田 敦	富士山新規噴出物の鉱物化学分析に基づくマグマプロセスの検討（その2）	報告書
3	2015-G-03	穀山 涉	産業技術総合研究所計測標準研究部門	新谷 昌人	広帯域地震計の感度の振動加速度一次標準による校正	報告書
4	2015-G-04	渡邊 力夫	東京都市大学工学部	新谷 昌人	人口衛星搭載型多成分微小加速度計による高層大気密度分布モデル確立に関する研究	報告書
5	2015-G-05	寺田 暁彦	東京工業大学火山流体研究センター	及川 純	熱水系卓越火山の火口浅部で発生する微小地震の精密震源決定	報告書
6	2015-G-06	嶋野 岳人	常葉大学大学院環境防災研究科	安田 敦	噴火推移モニタリングのための日別連続降灰試料解析法の迅速化	報告書
7	2015-G-07	深尾 良夫	海洋研究開発機構地震津波海域研究開発センター	塩原 肇 篠原 尚 西田 究	海洋/固体地球システム現象解明のための高感度絶対水圧計海底アレー観測	報告書
8	2015-G-08	松島 健	九州大学大学院理学研究院	及川 純	膨張期に入った三宅島火山のマグマ溜まりを測地的に検出する研究	報告書
9	2015-G-09	高橋 嘉夫	東京大学大学院理学系研究科	中井 俊一	炭酸塩中のウラン-トリウム同位体比による地層中の過去の酸化還元状態の推移	報告書
10	2015-G-10	神田 径	東京工業大学火山流体研究センター	小山 崇夫	地下構造調査による草津白根火山の熱水系モデルの検証	報告書
11	2015-G-11	石原 靖	海洋研究開発機構地震津波海域研究開発センター	竹内 希	南鳥島における広帯域地震観測：準定常観測に向けた伊豆・小笠原海域の地震の検出と解析の安定性の評価	報告書
12	2015-G-12	大園 真子	山形大学理学部	加藤 照之	山形盆地断層帯周辺の地殻変動－詳細な余効変動観測と変形過程の把握－	報告書
13	2015-G-13	山口 覚	大阪市立大学大学院理学研究科	上嶋 誠	同一断層系で活動性が異なる断層セグメント間の電気比抵抗構造の違いに関する研究	報告書

No.	No.	代表者名	所属機関	担当教員	研究課題	報告書
14	2015-G-14	橋本 明弘	気象庁気象研究所予報研究部	鈴木 雄 治郎	気象予測モデルと3次元噴煙ダイナミクスモデルの統合による適用性の優れた火山灰分布予測モデルの開発	報告書
15	2015-G-15	後藤 章夫	東北大学東北アジア研究センター	平賀 岳 彦	溶岩流試料の室内実験による粘性係数測定と、野外観測値との比較に基づく、溶岩流流動機構の解明ーその3：組織変化に着目してー	報告書
16	2015-G-16	金子 克哉	京都大学大学院人間・環境学研究科	小屋口 剛博	阿蘇カルデラ下のマグマ供給系の進化と大規模カルデラ噴火準備過程のモデル構築	報告書
17	2015-G-17	長谷中 利昭	熊本大学大学院自然科学研究科	安田 敦	阿蘇-4火砕噴火及び前駆噴火噴出物に含まれる鉱物中のメルト包有物の研究	報告書
18	2015-G-18	金嶋 聰	九州大学大学院理学研究院	川勝 均	火口直下の浅部火道における水蒸気爆発の準備過程の観測的研究	報告書
19	2015-G-19	小園 誠史	東北大学大学院理学研究科	鈴木 雄 治郎	霧島山新燃岳2011年噴火における火道流のダイナミクスに関する数値的研究	報告書
20	2015-G-20	中東 和夫	神戸大学大学院理学研究科	山田 知 朗	海底での地震・磁力同時観測手法の確立	報告書
21	2015-G-21	原田 靖	東海大学海洋学部	加藤 照 之	稠密GPS観測に基づく東海地方下の歪場とプレート境界のすべり分布の解明	報告書
22	2015-G-22	中西 一郎	京都大学大学院理学研究科	吉田 真吾	石本文庫の翻刻	報告書

◆研究集会（研究期間：平成27年4月1日-平成28年3月31日）
 （全国の研究者が地震・火山関連分野のテーマについて集中的に討議する研究会）

No.	No.	代表者名	所属機関	担当教員	研究集会名	開催 予定日	報告書
1	2015-W-01	田中 聡	海洋研究開発機構 地球深部ダイナミクス研究分野	清水 久芳 竹内 希	日本版地球・惑星深部 研究グループ(JSEDI) キックオフ集会	H27年9月25、 26、27日	報告書
2	2015-W-02	吉岡 祥一	神戸大学都市安全 研究センター	本多 了	沈み込み帯	H27年5月29、 30日	報告書
3	2015-W-03	東田 進也	気象庁地震火山部	ト部 卓弘 鶴岡 弘	揺れをはじめとする固体地球化学的諸現象の監視及び予測システム	H27年12月頃 の2日間	報告書
4	2015-W-04	熊澤 峰夫	名古屋大学	渡辺 俊樹 竹内 希 武井 康子	地球内部構造の観測・監視技術の現状と未来	H27年9月	報告書
5	2015-W-05	齊藤 竜彦	防災科学技術研究所 地震・火山防災研究ユニット	古村 孝志	弾性体・流体の波動現象：次世代海陸統合観測網の活用に向けて	H27年9月の2日間	報告書
6	2015-W-06	矢部 康男	東北大学大学院理学研究科	平賀 岳彦	地震発生の素過程研究集会	H28年2月下旬 に2日間	報告書
7	2015-W-07	廣瀬 仁	神戸大学自然科学系 先端融合研究環	小原 一成	スロー地震の発生メカニズムを探る：観測・調査・実験・理論・モデリングからの情報の統合化と巨大地震との関連性の解明を目指して	H27年9月	報告書
8	2015-W-08	今村 文彦	東北大学災害科学国際研究所	佐竹 健治	巨大津波災害に関する合同研究集会	H27年12月中旬	報告書
9	2015-W-09	松川 宏	青山学院大学理工学部	波多野 恭弘	Friction -from atomic to geophysical scales-	H27年9月14日 -15日	報告書
10	2015-W-10	村上 英記	高知大学教育研究部	上嶋 誠	地球電磁気学分野から見てきた地震・火山噴火現象とその発生場ーマイクロからマクロスケールの素過程の解明に向けてー	H28年1月中の 2日間	報告書
11	2015-W-11	山野 誠	東京大学地震研究所	山野 誠	海溝の海側で生じる過程を探る：沈み込み帯へのインプット	H27年9月の2日間	報告書

No.	No.	代表者名	所属機関	担当教員	研究集会名	開催 予定日	報告書
12	2015-W-12	堀 高峰	海洋研究開発機構 地震津波海域観測 研究開発センター	波多野 恭 弘	室内実験と数値実験から探る地 震活動の物理	H27年12月～ H28年3月の2 日間	報告書
13	2015-W-13	河村 雄 行	岡山大学大学院環 境生命科学研究科	平賀 岳彦	物質科学的視点から迫る断層 運動についての学際的取り組み	H27年8月下旬 の3日間	報告書
14	2015-W-14	鈴木 康 弘	名古屋大学減災連 携研究センター	石山 達也	進化する地形・地質学的アプ ローチによる活断層・古地震像 の構築と地震発生予測の高度 化	H27年11月	報告書
15	2015-W-15	鈴木 雄 治郎	東京大学地震研究 所	鈴木 雄治 郎	火山現象のダイナミクス・ 素過程研究	H27年10月～ 12月の2日間	報告書

◆地震・火山噴火の解明と予測に関する公募研究(研究期間:平成27年4月1日—平成28年3月31日)

(災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画のうち、「1.地震・火山現象の解明のための研究」、「2.地震・火山噴火の予測のための研究」に関連する新規研究課題)

No.	No.	代表者名	所属機関	継続 新規	担当教員	研究課題	報告書
1	火山1	大場 武	東海大学理学部	継続	企画部	火山ガス観測による箱根山等の熱水系構造解明と群発地震発生予測	報告書
2	火山2	伴 雅雄	山形大学理学部	新規	企画部	蔵王山、五色岳活動期のマグマ進化過程解明に関する研究	報告書
3	火山3	和田 恵治	北海道教育大学旭川校	継続	企画部	十勝岳と雌阿寒岳における噴火推移の高分解能な解析とマグマ供給系	報告書
4	海溝型1	知北 和久	北海道大学大学院理学研究院	新規	企画部	沿岸潟湖の発達史から見た北海道太平洋岸における巨大津波履歴の再検討	報告書
5	海溝型2	渡邊 剛	北海道大学大学院理学研究院	新規	企画部	サンゴからなる津波石の骨格調査に基づく南西諸島周辺の津波履歴の解明	報告書
6	内陸1	志藤 あずさ	京都大学大学院理学研究科	新規	企画部	短波長不均質構造推定による地震動即時予測高度化へ向けた試験的研究	報告書
7	史料1	蝦名 裕一	東北大学災害科学国際研究所	新規	企画部	岩手県沿岸で発生した地震・津波に関連する歴史情報の収集	報告書
8	史料2	林 晋	京都大学大学院文学研究科	新規	企画部	古地震のウェブを目指して	報告書
9	先行1	織原 義明	東京学芸大学教育学部	継続	企画部	公的研究機関以外が所有する計測データを用いた地下水の地震先行現象調査	報告書
10	先行2	上田 誠也	東京大学地震研究所	継続	企画部	臨界現象の物理を背景としたナチュラルタイム概念による地震活動度解析	報告書